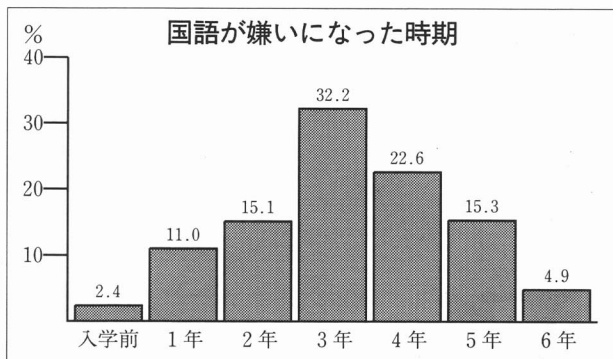


グラフ7



※ これらのグラフは、「好き」「嫌い」と回答したそれぞれの児童の総数を母集団としている。なお、「好き」の中には、「好き」「どちらかといえば好き」が含まれており、「嫌い」の中には、「嫌い」「どちらかといえば嫌い」が含まれている。

② 考 察

国語が好きになった時期は、1年が最も多く、次いで3年が多い。また嫌いになった時期は3年が最も多く、次いで4年が多い。また、各学年の「好きになった時期」として回答した率と「嫌いになった時期」として回答した率を比べると、特に3年以後は嫌いになった時期として選択した率が高くなっている。

これらから、国語の学習にとって重要な時期として、中学年に注目する必要があると思われる。

《好き(嫌い)になった理由》

① 調査結果 (自由記述による回答)

○ 「好きになった理由」として、多くあげられたもの(4~6年)

- ・ 漢字 (約28%)
- ・ 物語 (約24%)
- ・ 作文 (約15%)

※ 数値(%)は、あげられた項目の総数を「好きです」「どちらかといえば好きです」と回答した総人数で割り、百分率で表したものである。

○ 「嫌いになった理由」として、多くあげられたもの(4~6年)

- ・ 漢字 (約42%)
- ・ 作文 (約15%)
- ・ むずかしい (約10%)

※ 数値(%)は、あげられた項目の総数を「嫌いです」「どちらかといえば嫌いです」と回答した総人数で割り、百分率で表したものである。

② 考 察

国語が好きになった理由として多くあげられたものは、「漢字」「物語」「作文」である。また、嫌いになった理由として多くあげられたものは、「漢字」「作文」「むずかしい」であり、特に「漢字」は40%以上を占めている。

この結果を見ると、「漢字」と「作文」は好きになった理由、嫌いになった理由のどちらにもあがっており、国語の指導をしていく上で、今後これらのことを踏まえた指導の工夫が望まれる。

(3) 国語における好きでない(苦手な)学習

① 調査結果

ここでは、「好き嫌いの理由」と別に、選択肢をあげて、児童が「好きでない(苦手)」と感じている国語の学習について調査した。その結果が次のグラフである。

グラフ8

